

# SynchRoid10.7.0.9について

- 1. 10.7.0.9について**
2. バージョンアップ時のロボットへの影響について
3. 既知の事象について

10.7.0.9は、10.7.0.4で発生している不具合を修正したバージョンとなります。  
また、その他の機能については10.7.0.4から変更はありません。

10.7.0.4で発生した不具合は下記の通りです。

項番	機能	事象	発生バージョン
1	MC	10.7で複数のロボットを同時実行すると実行に失敗したり実行中のみ停止できなくなる。	10.7.0.4
2	MC	10.7.0.1、10.7.0.2および10.7.0.3で作成したフルバックアップのファイルで10.7.0.4でリストアすると、MC上でロボットの実行ができない。	10.7.0.4
3	Kapplets	10.3から10.7にバージョンアップ後、KappletでError in Validationが発生する。	10.7.0.4

1. 10.7.0.9について
2. **バージョンアップ時のロボットへの影響について**
3. 既知の事象について

Ver.10.7.0.9へバージョンアップしてDesignStudioの日本語版を使用する場合、  
下位バージョンで作成したロボットで影響が判明している事象は下記の通りです。

No.	10.7.0.9移行時のDesignStudio日本語版での事象	影響バージョン	障害対応状況
①	読み取り専用で開いたExcel(View As Excel)に対して「Set Current Window」を行った際に、「Set Current Window」ステップのウィンドウ名称が10.3.xから10.7.xの日本語版DSでは「表示」となっているため、対象のバージョンのロボットを10.7.0.9に移行した場合エラーとなる。	10.2.0.3 10.3.x 10.4.x 10.7.0.4	
②	DS内で新規Excelを開くとシート名が“シート”で指定しているためエラーとなる。	10.3.0.2	10.3.0.7で修正 対応済み
③	SetCurrentWindowステップにてウィンドウ設定に「名前がありません」が指定されているためエラーとなる。	10.3.0.2	10.3.0.7で修正 対応済み

Ver.10.2.0.3で作成されたロボットをVer.10.7.0.9に移行した場合の影響は下記が該当します。  
事象の概要については「v10.7.0.9へバージョンアップ時のロボットへの影響」を、各事象の詳細については「移行時の影響詳細」を参照ください。

移行元バージョン		10.7.0.9	影響及び対処内容
		日本語版	
10.2.0.3	英語版	影響あり ①	<英語版→日本語版へ移行時> ①移行元または、移行先バージョンで、読み取り専用で開いたExcel(View As Excel)に対して「Set Current Window」を行う場合は、ウィンドウ名のリストからウィンドウ番号を設定する。 例：「Window #2 (View) 」または、「Window #2 (表示) 」

Ver.10.3.0.2で作成されたロボットをVer.10.7.0.9に移行した場合の影響は下記が該当します。  
 事象の概要については「v10.7.0.9へバージョンアップ時のロボットへの影響」を、各事象の詳細については「移行時の影響詳細」を参照ください。

移行元バージョン		10.7.0.9	影響及び対処内容
		日本語版	
10.3.0.2	日本語版	影響あり ②③	<p>&lt;日本語版→日本語版へ移行時&gt;</p> <p>②ファインダーでExcelのシート名に「シート」を設定している場合は、「sheet」に変更する必要あり。</p> <p>③SetCurrentWindowステップにてウィンドウ設定に「名前がありません」を設定している場合は、「Unnamed」に変更する必要あり。</p>
	英語版	影響あり ①	<p>&lt;英語版→日本語版へ移行時&gt;</p> <p>①移行元または、移行先バージョンで、読み取り専用で開いたExcel(View As Excel)に対して「Set Current Window」を行う場合は、ウィンドウ名のリストからウィンドウ番号を設定する。          例：「Window #2 (View) 」または、「Window #2 (表示) 」</p>

Ver.10.3.0.7で作成されたロボットをVer.10.7.0.9に移行した場合の影響は下記が該当します。  
 事象の概要については「v10.7.0.9へバージョンアップ時のロボットへの影響」を、各事象の詳細については「移行時の影響詳細」を参照ください。

移行元バージョン		10.7.0.9	影響及び対処内容
		日本語版	
10.3.0.7	日本語版	影響なし	
	英語版	影響あり ①	<英語版→日本語版へ移行時> ①移行元または、移行先バージョンで、読み取り専用で開いたExcel(View As Excel)に対して「Set Current Window」を行う場合は、ウィンドウ名のリストからウィンドウ番号を設定する。 例：「Window #2 (View) 」または、「Window #2 (表示) 」



Ver.10.4.0.4で作成されたロボットをVer.10.7.0.9に移行した場合の影響は下記が該当します。

事象の概要については「v10.7.0.9へバージョンアップ時のロボットへの影響」を、各事象の詳細については「移行時の影響詳細」を参照ください。

移行元バージョン		10.7.0.9	影響及び対処内容
		日本語版	
10.4.0.4	日本語版	影響なし	
	英語版	影響あり ①	<英語版→日本語版へ移行時> ①移行元または、移行先バージョンで、読み取り専用で開いたExcel(View As Excel)に対して「Set Current Window」を行う場合は、ウィンドウ名のリストからウィンドウ番号を設定する。 例：「Window #2 (View) 」または、「Window #2 (表示) 」

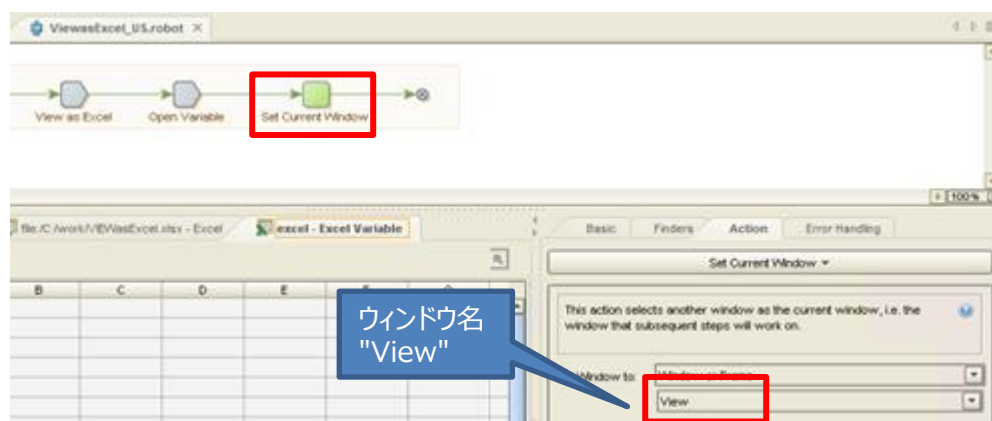
Ver.10.7.0.4で作成されたロボットをVer.10.7.0.9に移行した場合の影響は下記が該当します。

事象の概要については「v10.7.0.9へバージョンアップ時のロボットへの影響」を、各事象の詳細については「移行時の影響詳細」を参照ください。

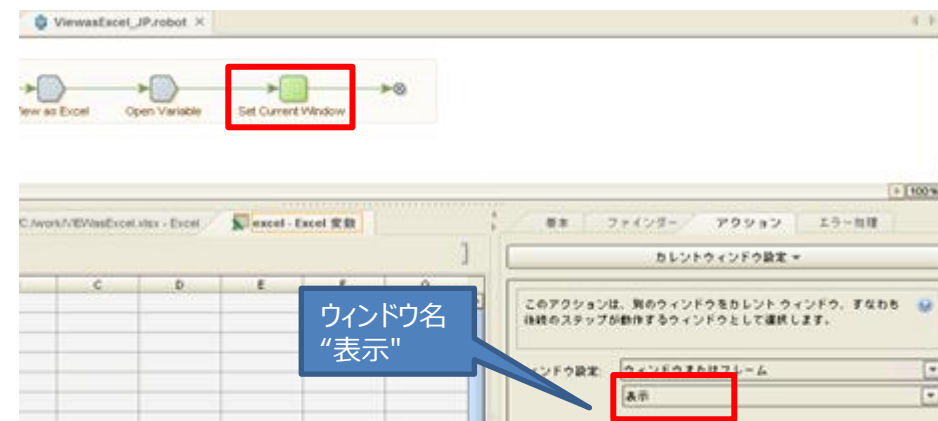
移行元バージョン		10.7.0.9	影響及び対処内容
		日本語版	
10.7.0.4	日本語版	影響なし	
	英語版	影響あり ①	<英語版→日本語版へ移行時> ①移行元または、移行先バージョンで、読み取り専用で開いたExcel(View As Excel)に対して「Set Current Window」を行う場合は、ウィンドウ名のリストからウィンドウ番号を設定する。 例：「Window #2 (View) 」または、「Window #2 (表示) 」

事象①	原因
View As Excelに対して行ったカレントウィンドウ設定(Set Current Window)ステップにてエラー	読み取り専用で開いたExcel(View As Excel)に対して「Set Current Window」を行った際に、「Set Current Window」ステップのウィンドウ名称が英語版では「View」、10.3.xから10.7.xの日本語版は「表示」となっているためエラーとなる。 英語版ではView As Excelのウィンドウ名に「View」がデフォルトで設定される 10.3.xから10.7.xの日本語版ではView As Excelのウィンドウ名に「表示」がデフォルトで設定される

## DS英語版



## DS日本語版

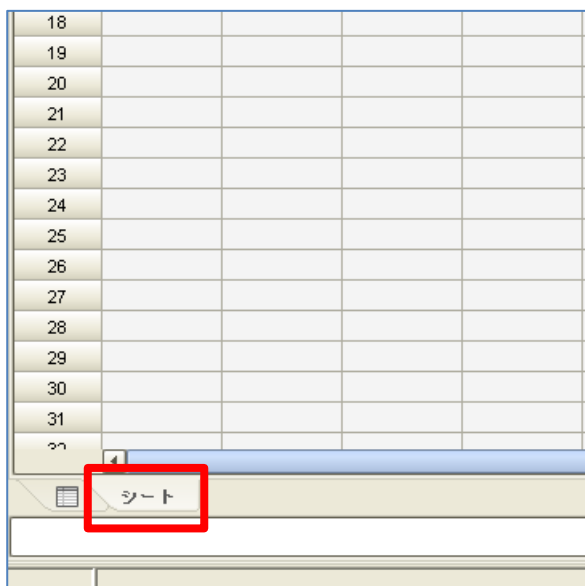


### 対処方法

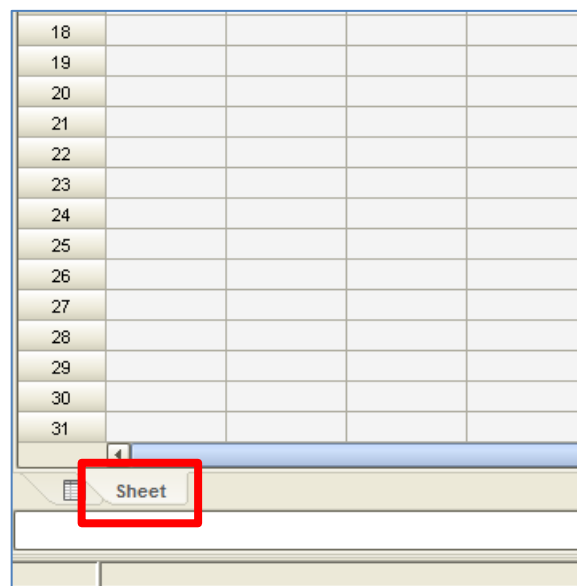
ウィンドウ名のリストからウィンドウ番号を設定する。  
例：「Window #2 (View)」または、「Window #2 (表示)」

事象②	原因
セルのコンテンツ設定(Set Content of Cell)ステップにてエラー	Ver10.3.0.2のDS内で新規Excelを開くとシート名が“シート”となっているため、10.3.0.7以降のバージョンでロボットを実行するとシート名が異なり、設定先のシートが特定できずエラーとなる。 10.3.0.2のシート名は“シート” 10.3.0.7以降のシート名は“Sheet”

## Ver 10.3.0.2



## Ver 10.3.0.7以降

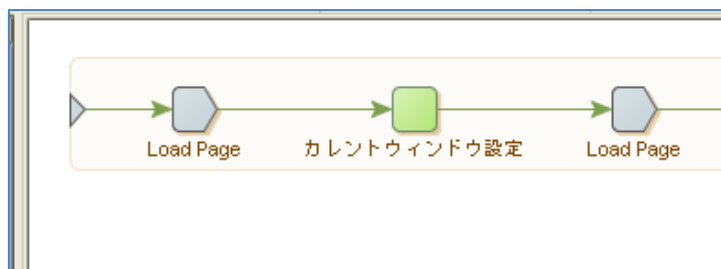


### 対処方法

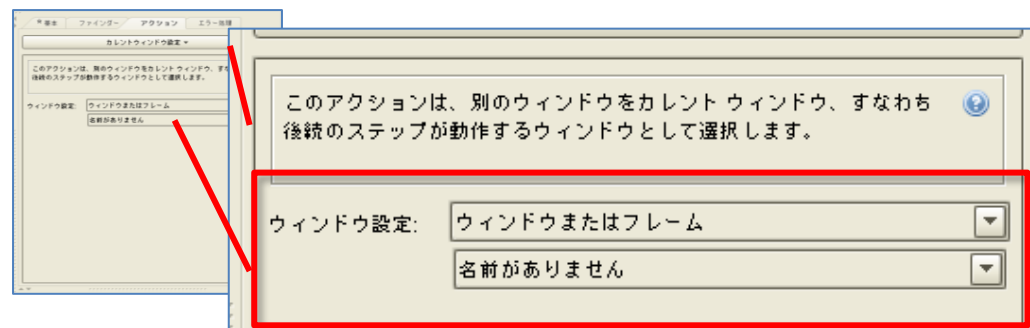
ファインダーに設定しているシート名を“Sheet”に変更する。

事象③	原因
カレントウィンドウ設定(Set Current Window)ステップにてエラー	Load Page アクションの前段に Set Current Window アクションが自動で生成されるが、10.3.0.2ではウィンドウ設定に“名前がありません”が設定されており、10.3.0.7以降のバージョンでロボット実行するとエラーとなる。 10.3.0.2は「名前がありません」 10.3.0.7以降は、「unnamed」

## Ver 10.3.0.2



## アクションタブ



### 対処方法

カレントウィンドウ設定のウィンドウ設定を“名前がありません”を正しいウィンドウ名に変更する。

1. 10.7.0.9について
2. バージョンアップ時のロボットへの影響について
3. **既知の事象について**

10.7.0.9において下記の事象が発生することが判明しています。

項番	機能	事象	影響度
1	DS	ステップの設定で、エクスプレッション内の関数を表示した時に、表示される関数のリストが見切れている。画面の解像度にもよるが、画面に表示できていない関数のリストが存在する。	中
2	DA	10.3.2.1まで動いていたロボットのOpen Stepが10.4.0.4以降のバージョンで動かない。Pathに使用している「¥」の変換の仕様が変更された。	中
3	DA	Chromiumでは、Webアプリケーションに実装されているフォルダアップロード機能が動作しない。	小
4	MC	下位バージョンでプロジェクトにAdministrator権限のロールを割り当てたまま移行した場合、10.7.0.9ではプロジェクトにAdministratror権限の割り当てはできないにも関わらず移行されたように見える。 本動作は想定していない動作となっており、そのままでの利用は動作保証外となるため移行後にロールの再割り当てが必要となる。	中
5	MC	v10.3.xで作成したトリガーマッピング込みのフルバックアップファイルを10.7.0.9でリストアするとエラーとなる。	中
6	Kapplets	Kapplet実行画面の「STOP」ボタンが機能しない。	中

- 項番1: <対応策> 現状は無し。ただし上下矢印キーで見えないリストを選択することは可能

The screenshot shows the Design Studio interface with a 'ステップの設定' (Step Settings) dialog box open. The 'アクション' (Action) tab is selected, and a dropdown menu is open, listing various functions. A red box highlights the list of functions, and a red text annotation reads '画面内に表示されていない関数リストが存在' (A list of functions not displayed on the screen exists).

画面内に表示されていない関数リストが存在

関数リスト:

- テキストの置き換え: `replaceText(source, oldText, newText)`
- パターンの置き換え: `replacePattern(source, pattern, newText)`
- すべてのスペースを除去: `removeSpaces(...)`
- 末尾のスペースを除去: `trim(...)`
- 連続するスペースを 1 つにまとめる: `collapseSpaces(...)`
- キャピタライズ: `capitalize(...)`
- 小文字に変換: `toLowerCase(...)`
- 大文字に変換: `toUpperCase(...)`
- 含む: `contains(source, text)`
- インデックス オフ: `indexOf(source, text)`
- 次で始まる: `startsWith(source, text)`
- 次で終わる: `endsWith(source, text)`
- 部分文字列: `substring(source, start, end)`
- 長さ: `length(...)`
- 現在の日付と時間: `now()`
- 現在の日付: `date()`
- 時間 (hh:mm:ss.fff): `time(...)`
- 短形式の時間 (hh:mm:ss): `shortTime(...)`
- 日: `day(...)`
- 平日: `weekday(...)`
- 月: `month(...)`
- 年: `year(...)`
- 四捨五入: `round(...)`
- 端数切り上げ: `ceil(...)`
- 端数切り捨て: `floor(...)`
- 整数に変換: `toInteger(...)`
- 数値に変換: `toNumber(...)`
- 最大: `max(a, b)`
- 最小値: `min(a, b)`
- URL を絶対参照にする: `resolveURL(...)`
- URL エンコード: `urlencode(...)`
- URL デコード: `urldecode(...)`
- 16進エンコード: `hexEncode(...)`
- 16進デコード: `hexDecode(...)`
- Base64 エンコード: `base64Encode(...)`
- Base64 デコード: `base64Decode(...)`
- MD5 チェックサム: `md5(...)`
- バイナリをテキストに変換: `binaryToText(...)`



- 項番2： <対応策> ファイルパスを認識できる形式に修正することでエラーは回避できる。

The screenshot shows the Desktop Automation Editor interface. A workflow step is highlighted with a blue arrow pointing to the file path: `"C:¥¥Users¥¥Administrator¥¥Desktop¥¥DATEST.txt"`. Below the path, the result is shown as `Result = ""C:\Users\Administrator\Desktop\DATEST.txt""`. A red text box explains that the handling of the wildcard character '¥' has been restricted since version 10.4.0.0, leading to errors. An error dialog box is also visible, stating: "実行を一時停止しました。エラーのため、実行は停止されました。DeviceIssue がステップ: 'Open on vm1' で発生しました。Error executing command: missing ) after argument list."

**ファイルパスに指定している「¥」の取り扱いが10.4.0.0から新しい制限として追加されており正常に処理できずエラーメッセージが表示されるようになった。**

 SoftBank